

一般国道397号「津付道路」事業概要

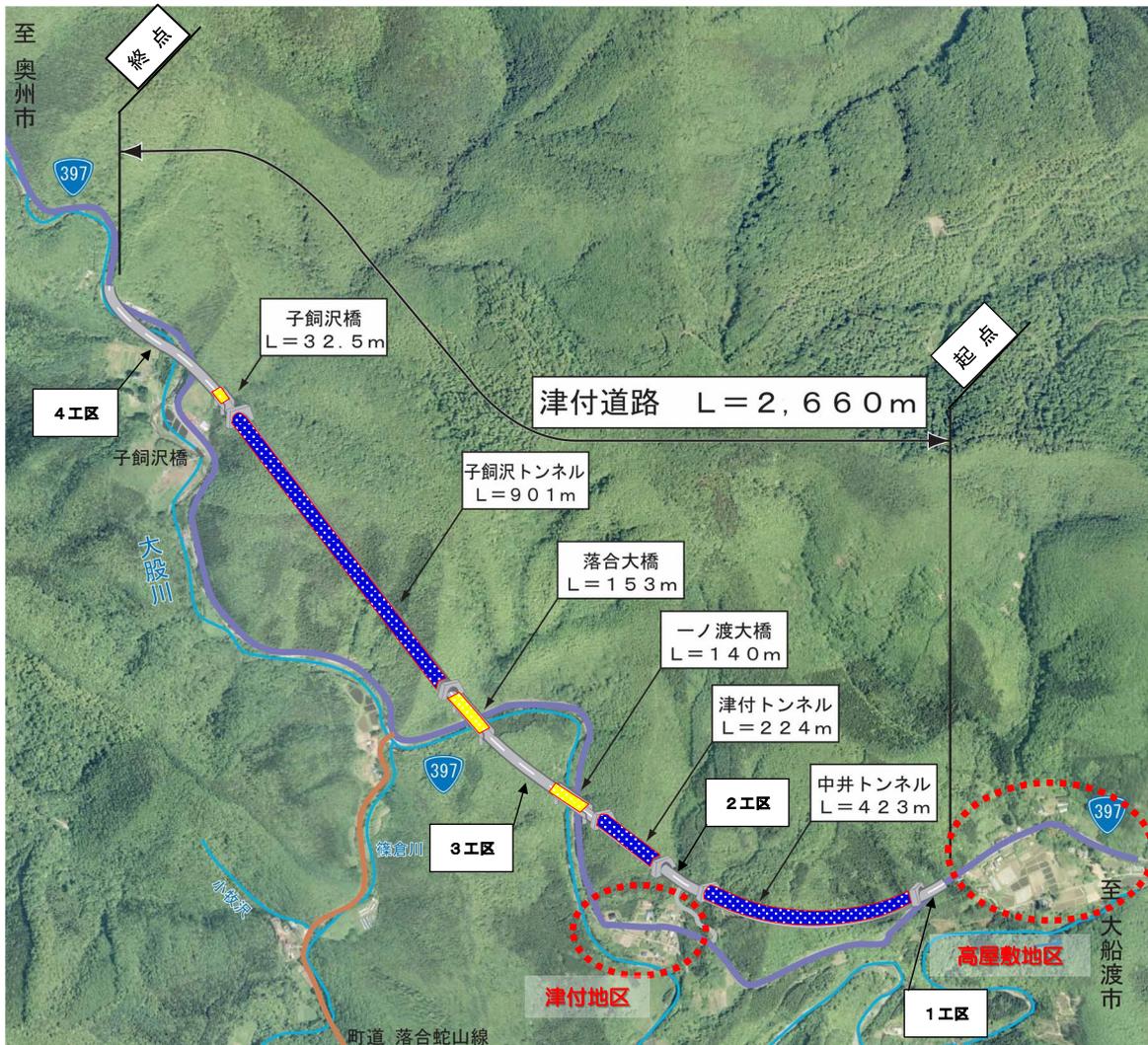
沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター津付ダム建設事務所、河川課、道路建設課

一般国道397号は、大船渡市から住田町、奥州市を経て秋田県横手市に至る、産業振興や救急医療、地域間の交流を支える幹線道路として大きな役割を果たしているほか、災害が発生した場合に優先的に交通の確保を図る緊急輸送道路にも指定している重要な路線であり、岩手県東日本大震災津波復興計画（復興実施計画）において復興支援道路に位置付け、重点的に整備を進めています。

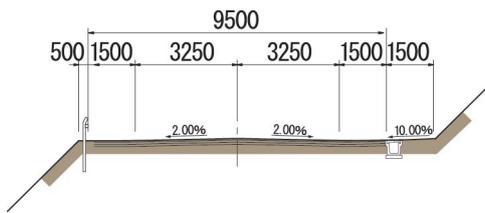
「津付道路」は、気仙川流域の住民を洪水被害から守るために大股川に計画された津付ダムによって水没する付替国道として整備されたものです。ダム建設は平成23年の東日本大震災津波によって治水対策を見直し中止となりましたが、震災以後『復興支援道路』として事業を継続し、平成17年度から調査設計を進め、19年度には工事に着手し、約10年の歳月を経て、住田町高屋敷地区から子飼沢地区までの約2.7キロメートルが完成しました。

【津付道路の概要】

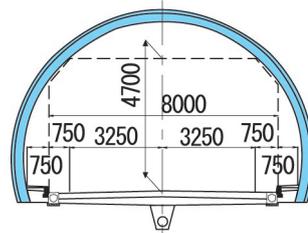
延長	幅員	事業費	事業期間	設計速度	最急縦断勾配
2,660m	土工区間 9.5m 構造物区間 8.0m	約69億円	平成17年度 ～平成26年度	60km/h	4%



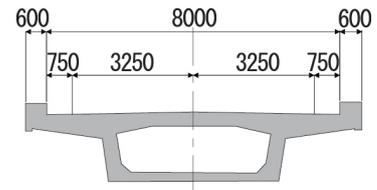
標準断面



トンネル断面



橋梁断面



【整備による効果】

- 走行性の向上
 - ・せまい道路幅員が解消され、大型車のはみだし走行がなくなります。
 - ・急勾配、急カーブが解消され、快適な走行ができます。冬期間の円滑な通行も図られます。
 - ・走行性が良くなると交通の安全性が高まります。
- 大船渡～岩手県内陸部の交流・物流条件の向上
 - ・津付道路の整備により、距離で約1 kmもの短縮、時間で約1分の短縮が図られます。
- 災害に対する安全性の向上
 - ・大雨や地震による急峻地形に起因する法面崩壊、土砂崩れに対する安全性の向上が期待できます。



大型車のすれ違いが困難な道路幅員



H15.5.26 南三陸地震による法面崩壊

【橋名板、トンネル銘板の揮毫】

橋名板とトンネル銘板の名前の揮毫は、地元小学校・中学校の児童・生徒の皆さんに書いて頂きました。橋名板は揮毫した児童の皆さんを現場に招待し、取り付けしてもらいました。また、トンネル銘板を揮毫した生徒の皆さんには、1/15（縦4cm×横20cm）サイズの銘板レプリカを製作し、記念として贈りました。



出来上がった橋名板を手にする児童の皆さん



橋名板を児童の手で橋梁に取付



記念の銘板レプリカを手にする生徒の皆さん



トンネル銘板のレプリカ

【完成にあたって】

『津付道路』は、先祖伝来の貴重な土地を御提供いただきました地権者の皆様の深い御理解と御協力、地元住田町をはじめとする関係機関の皆様の多大な御尽力により、完成の日を迎えることができました。

今後も、沿岸地域の復旧・復興に大きな役割を担う本路線をはじめとした復興道路等の整備に引き続き努めるなど、復興を強力に押し進めてまいります。